





「どろでござるかあ？
風真の撮りたてホヤホヤのお…
寝取らせどーが……♡」

ズボン
グズ
グズ



「あ、いや…違うでござったな…♡
もう寝取らせ…
じゃあなくてえ…♡」

ニギビ
ニギビ



「寝取られ…どーが…
でござったなあ…?♡♡」

「…ぐっ…!!」

ヒュー…♡

ヒュー…♡

「…ほんつとりに…
みつともないでござるなあ♡」

「寝取らせてたハズの彼女…
あつさり寝取られちゃうなんて…♡」





「そもそもお……
仮にも元々好きだった相手を
寝取らせ相手に選ぶって……♡」

「どおいう神経してたら
そうなるんでござるかあ……？」

「そういうよわあい
思考回路してるからあ…」

「風真のこと…
寝取られちゃうんでござるよ………♡」

「……うう……♡」





「うわ、オナホ越しでも分かるくらい
ちんちんピクピクしてる…♡」

「この状況楽しんでるんだあ…♡」

ゴクッ♡
ゴクッ♡



「……ッ……!!」

「♡♡♡♡♡」

「彼氏殿が聞いたらあ……
お腹抱えて笑うんだろぅなあ〜w」

「今度会ったら
話してあげよつと♡」

クス……♡



「あゝあ、早く彼氏殿の
かったあいデカチン…
ハメて欲しいでござる……♡」

「こんなぷよぷよの皮余り
粗チンとは違う…
オスの象徴……♡」

「想像しただけでマンコ…
疼いちゃうでござる……♡」

ぽんぽん



「そんなセックス
したそうな顔してもお…」

「もう君は風真と2度と
交尾出来ないでござるよ……?」

「……………うっ…」





「こうやってえ……風真の気まぐれで
寝取られ動画見せてもらいながら
オナホコキしてもらえるだけで……」

「すうつ……ごい幸せなんだ……ってことを……
ちやうんと理解して欲しいでござる……♡」

「うわっ…泣きそうな顔…w」

「そんな顔してもダメでござるう〜♡」

「ヒトリ♡」



「風真のこのむっちりおっぱいもお……
付き合ってた頃はほくり放題だった
肉厚ぎっちりのおまんこもお……♡」

「ぷりっぷりの柔かあいお尻も……♡
かわいーこの顔も……♡」





「ぜえんぶ彼氏殿のもの…♡」

「もう君はなあんにも…
使えないでござるよ…♡」

「考えてみれば当然でござるよなあ？
人には『釣り合い』って
いうのがあるわけだし♡」

「風真と君とじゃとてもとても…
全く釣り合っていないでござるもん♡」



「風真の運命の人は
君なんかじゃなくて…」

あの人だった…
ってことでござるな……♡」



「あのなっがいチンポ…♡
女慣れした腰使い…♡
すっごくかつこいい顔…♡」

「鍛えられた体に…♡
話だつて面白いし…♡」

「それにそれに…♡」



「彼のいいところ、言い出したら
キリがないでござる…♡」

「風真にぴったりの運命の人…♡
なあんで別れちゃったんだろ…♡」



「風真の全てを使わせてもいい…
そう思わせてくれるような人……♡

「君みたいな寝取らせ中毒の
きつもおいマゾとは大違いでござるな♡」



「まあでも……?……なあんか
可哀想だし……
……風真の……うーん……」

「ヨダレ……?……くらいなら……?」

「使わせてあげてもいいかなあ……
って思っただけど……」





イビキ〜♡♡♡

どきどき〜♡

どきどき〜♡

「使わせて欲しいでござるかあ？」

「おちんちんにべったり塗るか…
べろチューでたっぷり
唾液混ぜ合わせるか…♡」

「使い方は風真の
気分次第でござるけど…♡」

ニヤニヤ♡♡





「んん？」

ドキ

ドキ



!!

フー!!

フー!!

フー!!



「.....」



「.....♡.....」

グッ!!

グッ!!



「これくらいが
お似合いでござる…♡」

h

チャア...♡





「えっ…」

「っ！」

「っ！」

「まさかこれで……
射精しちやっつたんでござるか……？」

ドキッ♡

ドキッ♡



「うっわ……♡」

クス……

……ん



「……ほんつとくに……」

どうしようもない
寝取られマゾでござるなあ……」

「次は貞操帯でも
付けてみるでござるか？」

「……はーあ、笑わせて
もらったでござる…」

「今度会う時までには
もう少し我慢出来るように
なつとくでござるよ」

「そしたらもつと風真と
イチヤイチヤ出来るでござるからな♡」



「分かつたか？
マア〜ゾ…♡」



「どろでござるかあ？
風真の撮りたてホヤホヤのお…
寝取らせどーが……♡」

ニギハ

グ
ニギハ
ニギハ



「あ、いや…違うでござったな…♡
もう寝取らせ…♡
じゃあなくてえ…♡」

「寝取られ…どーが……♡
でござったなあ……？♡」

「…ぐっ……!!」

ニヤァ…♡

ニヤァ…♡





「…ほんつとりに…
みつともないでござるなあー♡」

「寝取らせてたハズの彼女…
あつさり寝取られちゃうなんて…♡」



「そもそもお……」

「仮にも元々好きだった相手を
寝取らせ相手に選ぶって……♡」

「どおいう神経してたら
そうなるんでござるかあ……？」

「そういうよわあい
思考回路してるからあ…」

「風真のこと…
寝取られちゃうんでござるよ………」

「……うう…♡」





「うわ、オナホ越しでも分かるくらい
ちんちんピクピクしてる…♡」

「この状況楽しんでるんだあ……♡」

ビクッ



「あゝ♡」

「……ッ……!!」

「彼氏殿が聞いたらあ……
お腹抱えて笑うんだろぅなあーw」

「今度会ったら
話してあげよっと♡」



「あーあ、早く彼氏殿の
かったあいデカチン…
ハメて欲しいでござる……♡」

「こんなぷよぷよの皮余り
粗チンとは違う…
オスの象徴……♡」

「想像しただけでマンコ…
疼いちゃうでござる……♡」



「そんなセックス
したそうな顔してもお…」

「もう君は風真と2度と
交尾出来ないでござるよ…？」

「……………うっ…」

ドキッ



「こうやってえ……風真の気まぐれで
寝取られ動画見せてもらいながら
オナホコキしてもらえるだけで……」

「すうっ……ごい幸せなんだ……ってことを……
ちやーんと理解して欲しいでござる……♡」



「うわっ…泣きそうな顔…w」

「そんな顔してもダメでござるう〜♡」



「風真のこのむっちりおっぱいもお…
付き合ってた頃はほじくり放題だった
肉厚ぎっちりのおまんこもお…♡」

「ぷりっぷりの柔かあいお尻も…♡
かわいーこの顔も…♡」



「ぜんぶ彼氏殿のもの…♡」

「もう君はなあんにも…
使えないでござるよ…♡」



「考えてみれば当然でござるよなあ？
人には『釣り合い』って
いうのがあるわけだし♡」

「風真と君とじゃとてもとても…
全く釣り合っていないでござるもん♡」



「風真の運命の人は
君なんかじゃなくて…」

あの人だった…
ってことでごさるな……♡

「あのなっがいチンポ…♡
女慣れした腰使い…♡
すっごくかつこいい顔…♡」

「鍛えられた体に…♡
話だって面白いし…♡」

「それにそれに…♡」





「彼のいいところ、言い出したら
キリがないでござる…♡」

「風真にぴったりの運命の人…♡
なあんで別れちゃったんだろ…♡」



「風真の全てを使わせてもいい…
そう思わせてくれるような人……♡

「君みたいな寝取らせ中毒の
きつもおいマゾとは大違いでござるな♡」



「まあでも……?……なあんか
可哀想だし……
……風真の……うーん……」

「ヨダレ……?……くらいなら……?」

「使わせてあげてもいいかなあ……
って思っただけ……」





「使わせて欲しいでござるかあ？」

「おちんちんにべツタリ塗るか…
ペロチューでたつぷり
唾液混ぜ合わせるか…♡」

「使い方は風真の
気分次第でござるけど…♡」



んん?



フッ
フッ
フッ
フッ
フッ

「……………」

ゴックン





「.....♡.....」

ハハハハハ
バババババ



「これくらいが
お似合いでござる…♡」

グッチャア…♡
グググ♡







「うん」

うん

うん

うん

「まさかこれで……
射精しちゃったんでござるか……？」





「うっわ……♡」

フフ...



「……ほんつとくに……
どうしようもない
寝取られマゾでござるなあ……」

「次は貞操帯でも
付けてみるでござるか？」



「……はーあ、笑わせて
もらったでござる…」

「今度会う時までには
もう少し我慢出来るように
なつとくでござるよ」

「そしたらもつと風真と
イチヤイチヤ出来るでござるからな♡」

「分かったか？」
「マア〜ゾ…♡」

